

ガラスの来た道



I. はじめに

BSS 山陰放送 平成 6(1994)年 10月放送から

II. ガラスの起源と伝播

- (1) メソポタミア・エジプト
- (2) ローマン・グラス
- (3) ササン・グラス
- (4) イスラム・グラス

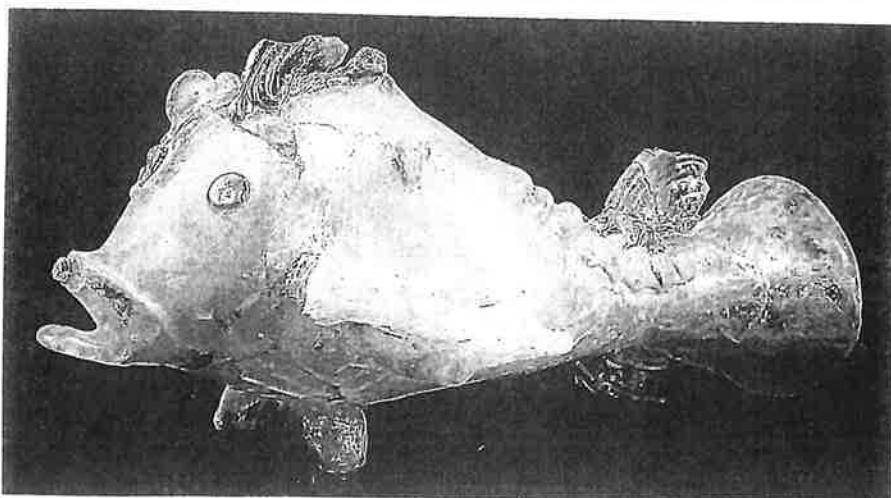
III. 中国・朝鮮・日本のグラス

- (1) 北燕・馮素弗墓
- (2) 新羅・金城(慶州) 金鈴塚・天馬塚・松林寺五重塔
- (3) 唐・長安(西安) 何家村・法門寺
- (4) 奈良・新沢千塚 126号墳・東大寺正倉院(中倉)

IV. 宗像・沖ノ島と固原・李賢墓出土のササン・グラス

- (1) 宗像・沖ノ島 8号岩陰遺跡
- (2) 寧夏回族自治区固原県・李賢墓
- (3) 大宰府鴻臚館跡

V. おわりに



切子括碗 ガラス
玻璃碗

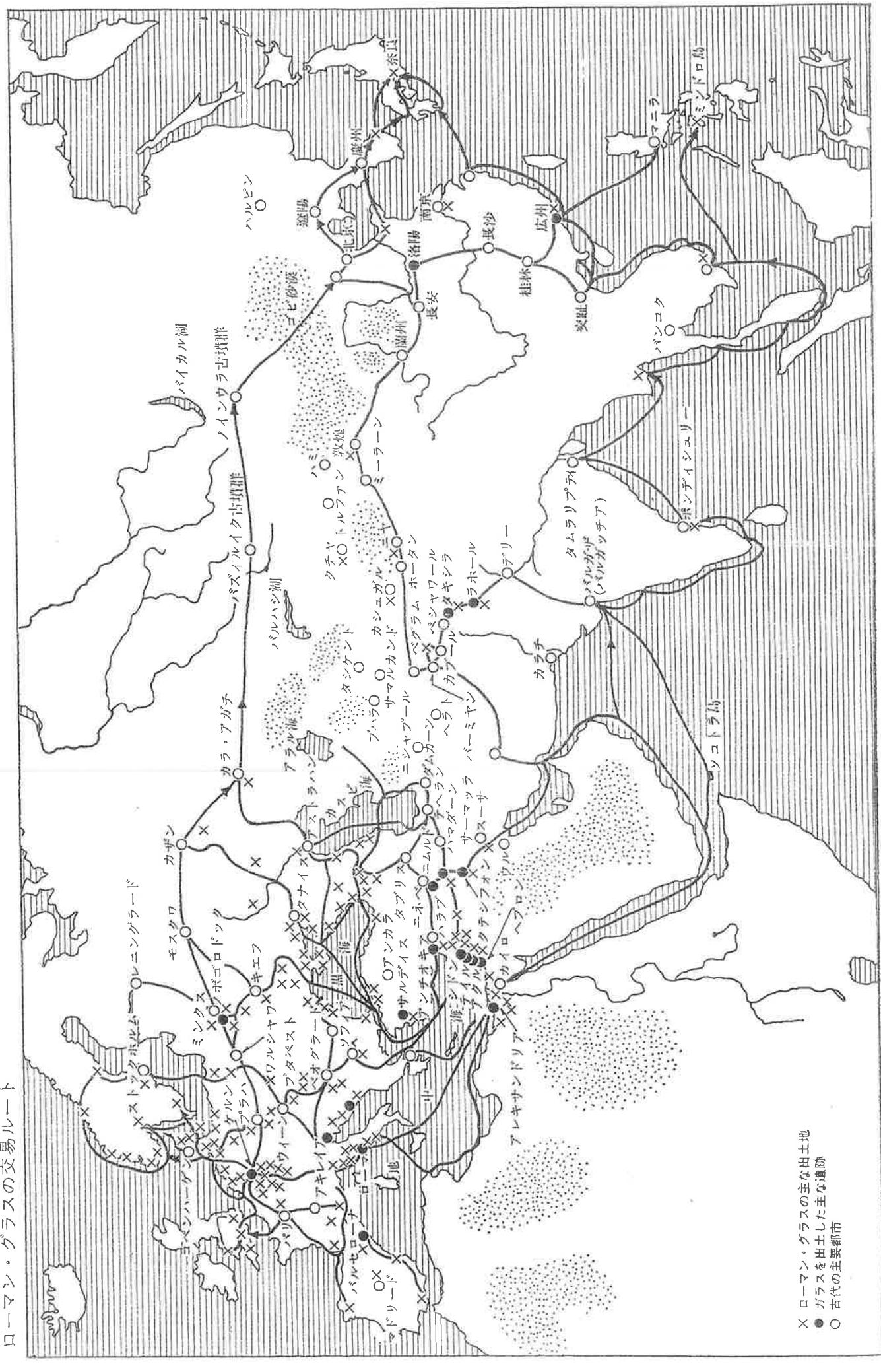
北魏時代
口径 10.4 cm 腹径 11.3 cm 高さ 7.3 cm
山西省大同市 1988年出土
山西省考古研究所蔵

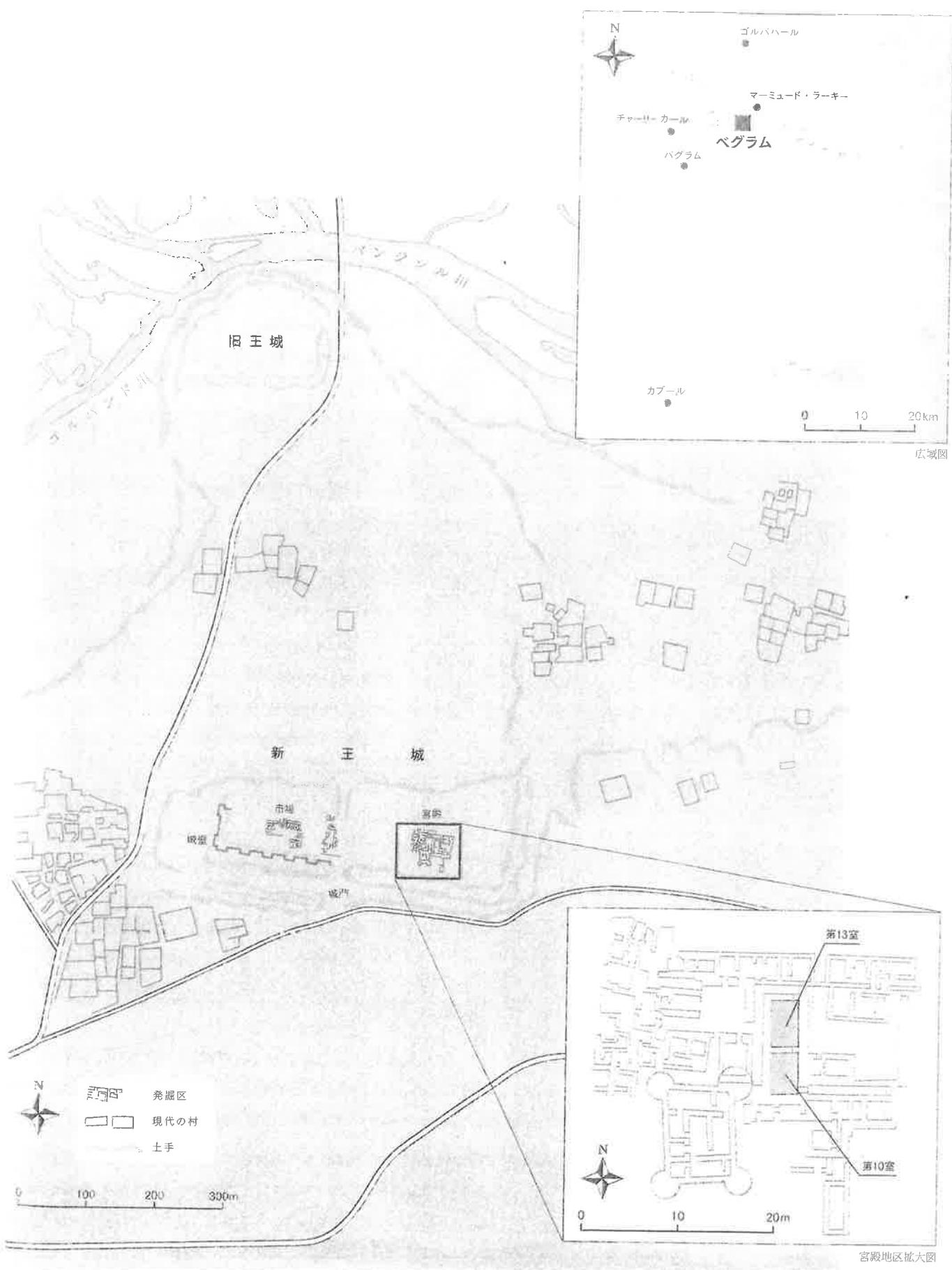
魚形フラスコ
1世紀
ガラス
8.7 × 10.7 × 20.0 cm

【お知らせ】

次回の館長講座は 12月 8日(日)13:30~(2時間程度) 講義室にて開催いたします。

ローマン・グラスの交易ルート





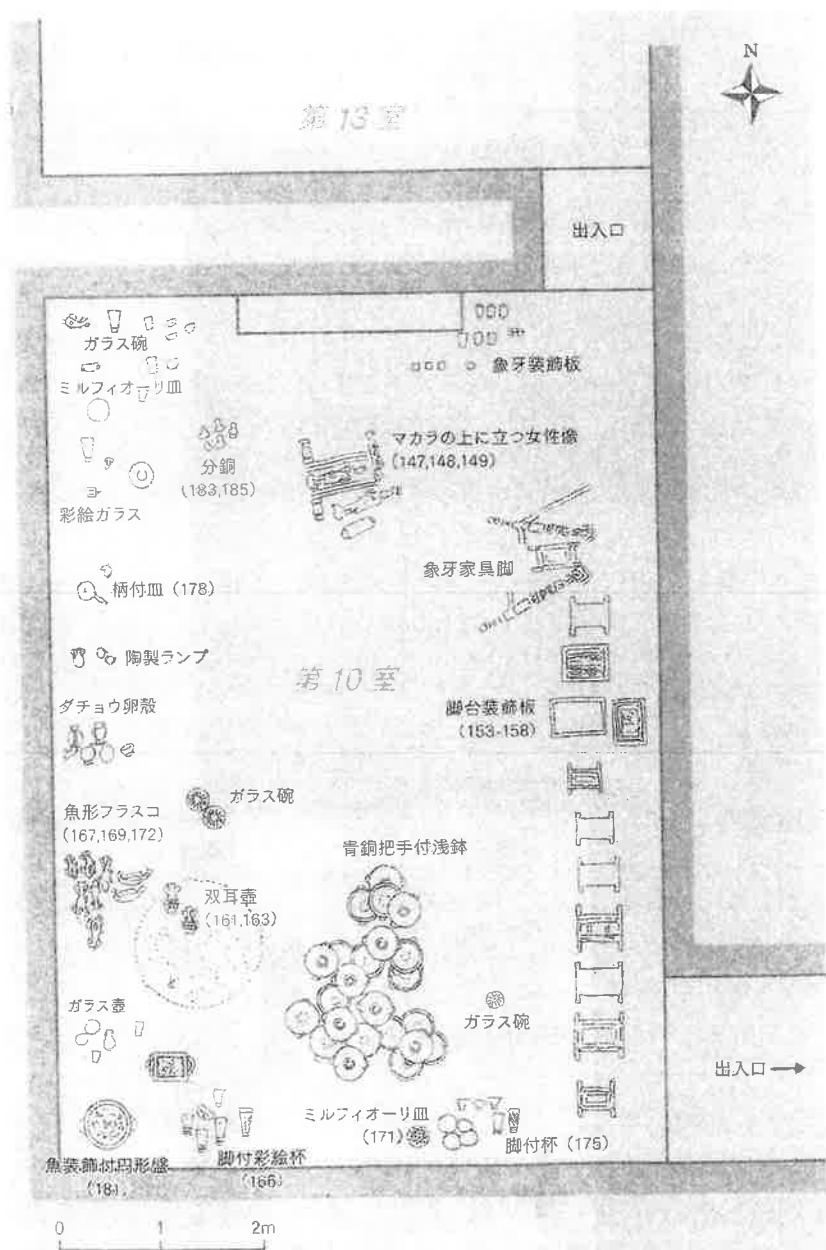
遺跡分布図

九州国立博物館・東京国立博物館・産経新聞社, 2016『黄金のアフガニスタン』

BEGRAM

Room 10

ベグラム 第10室



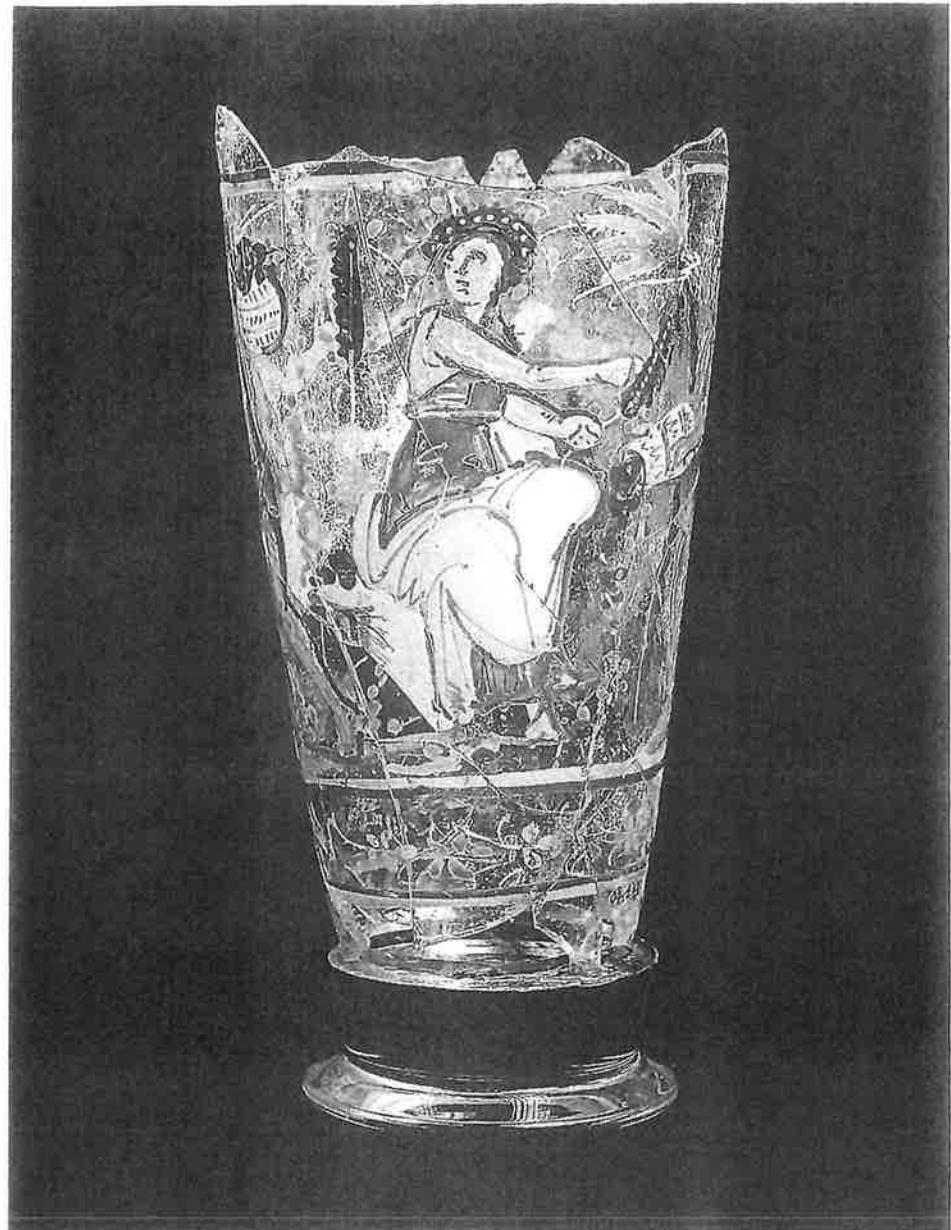
第10室は新王城と名付けられた地区の東側の王宮地区にあり、1937年にJ・アッカンの妻であるリア・アッカンが発掘を行なった。部屋は、南北8.3m、東西5.8mの長方形で、出入口は東面の南端と北面の東端の2ヵ所にある。いずれの出入口も発掘の際には、日干しレンガでふさがれていた。部屋の北壁中央部には低い棚が設けられていた。

部屋の東壁沿いを中心に象牙装飾付の脚台群(No.153他)が並び、東北隅近くに象牙製家具脚(No.152)が、北壁近くに象牙製女性立像(No.147他)が置かれていた。南壁近くには、多数の青銅製鉢(No.182)がまとめて置かれ、南西隅には魚装飾付円形盤(No.181)が、北壁付近には分銅(No.183他)が集められていた。

南壁南東隅付近には、ガラス製切子脚付杯(No.175)やミルフィオーリ皿が、また南壁沿いの南西寄りには、彩絵ガラス杯(No.166)が置かれていた。西壁南西隅付近にはガラス製壺(No.163他)が、西壁に沿った南側には魚形フラスコの一群(No.167他)が、西壁北側隅付近には彩絵ガラス、ミルフィオーリ皿やガラス製脚付杯(No.162他)などが集められていた。

このように象牙、青銅、ガラス、石などで作られたさまざまな遺物は、材質や種類ごとにきちんとまとめた床に置かれていた。当初の配置のまま発見されたとみてよいだろう。

(臺信)

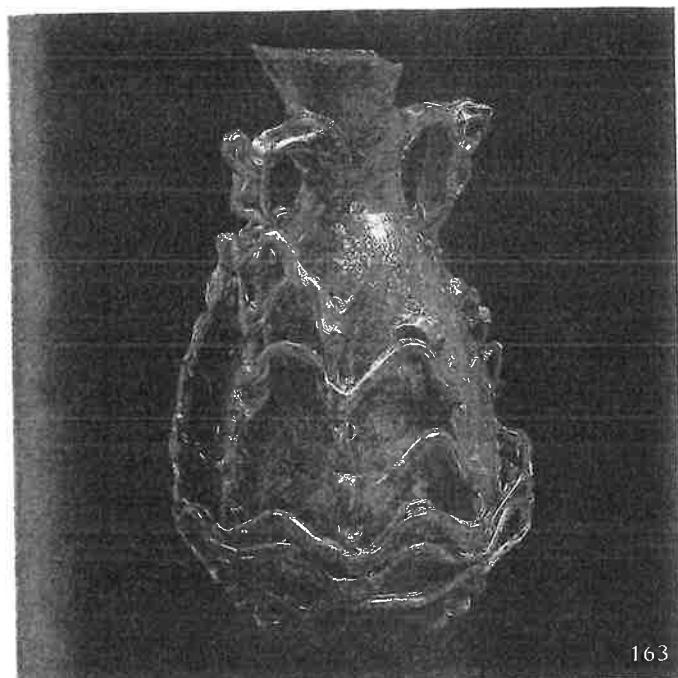


さやくつき まい え はい
脚付彩絵杯
1世紀
ガラス
高 12.6 cm、径 8.0 cm

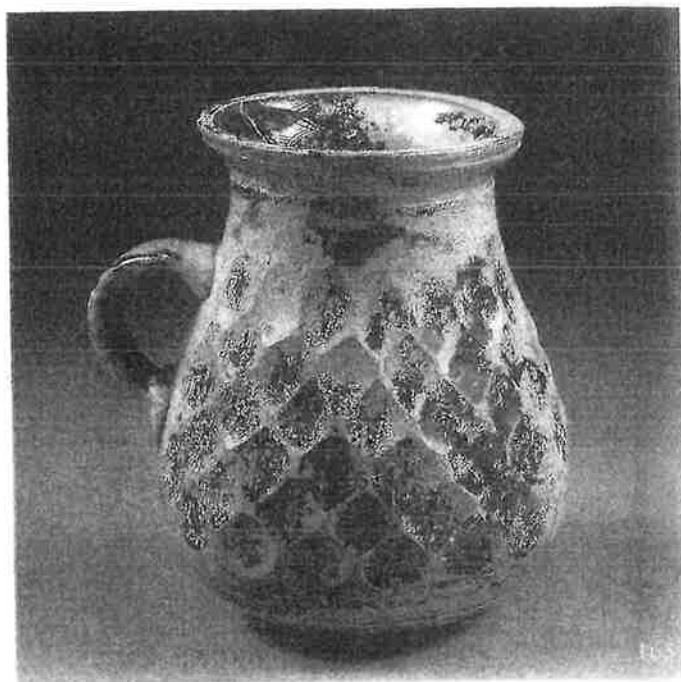
Painted goblet
1st century A.D.
Glass
H. 12.6 cm; Diam., 8.0 cm
04.1.43



〈166の各面〉



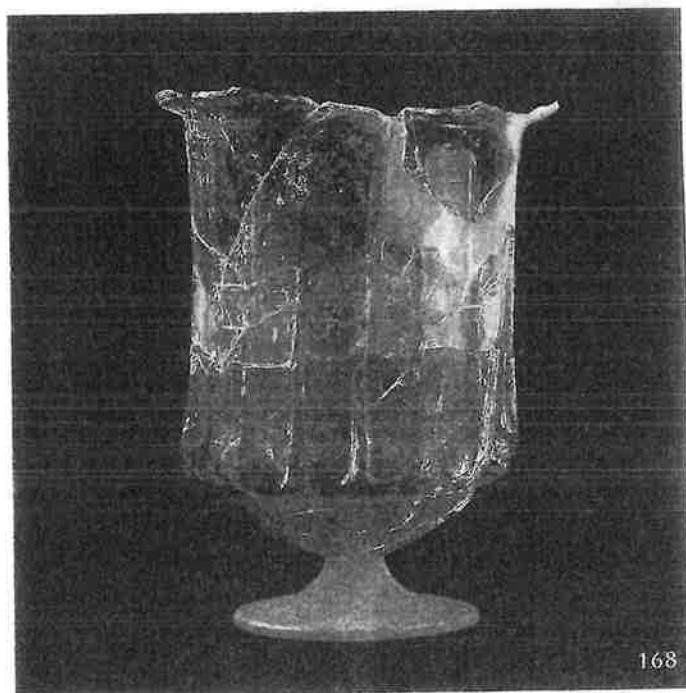
163



165



164



168

163 双耳壺

1世紀
ガラス
高 22.7 cm、径 8.0 cm

Vase with two handles
1st century A.D.
Glass
H. 22.7 cm; Diam. 8.0 cm

04_1_41

164 把手付杯

1世紀
ガラス
高 11.0 cm、径 9.2 cm

Cup with a handle
1st century A.D.
Glass
H. 11.0 cm; Diam. 9.2 cm

04_1_42

165 把手付杯

1世紀
ガラス
高 8.9 cm

Cup with a handle
1st century A.D.
Glass
H. 8.9 cm

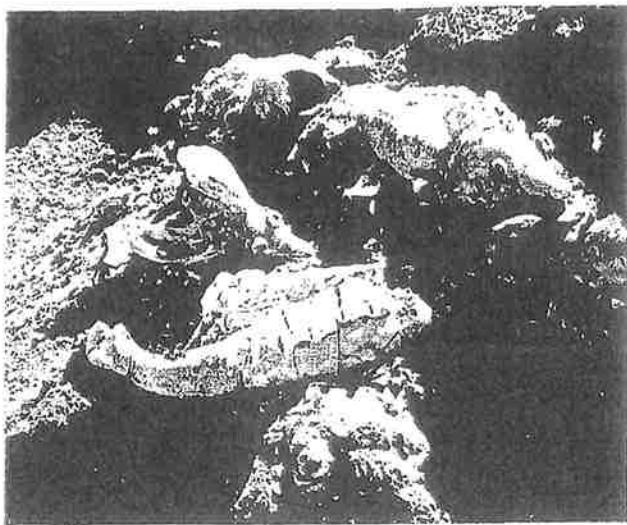
04_1_44

168 脚付杯

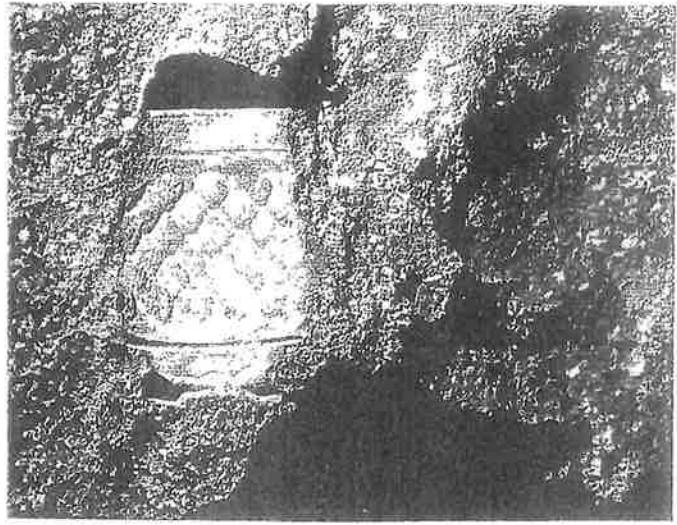
1世紀
ガラス
高 9.0 cm、径 6.5 cm

Goblet
1st century A.D.
Glass
H. 9.0 cm; Diam. 6.5 cm

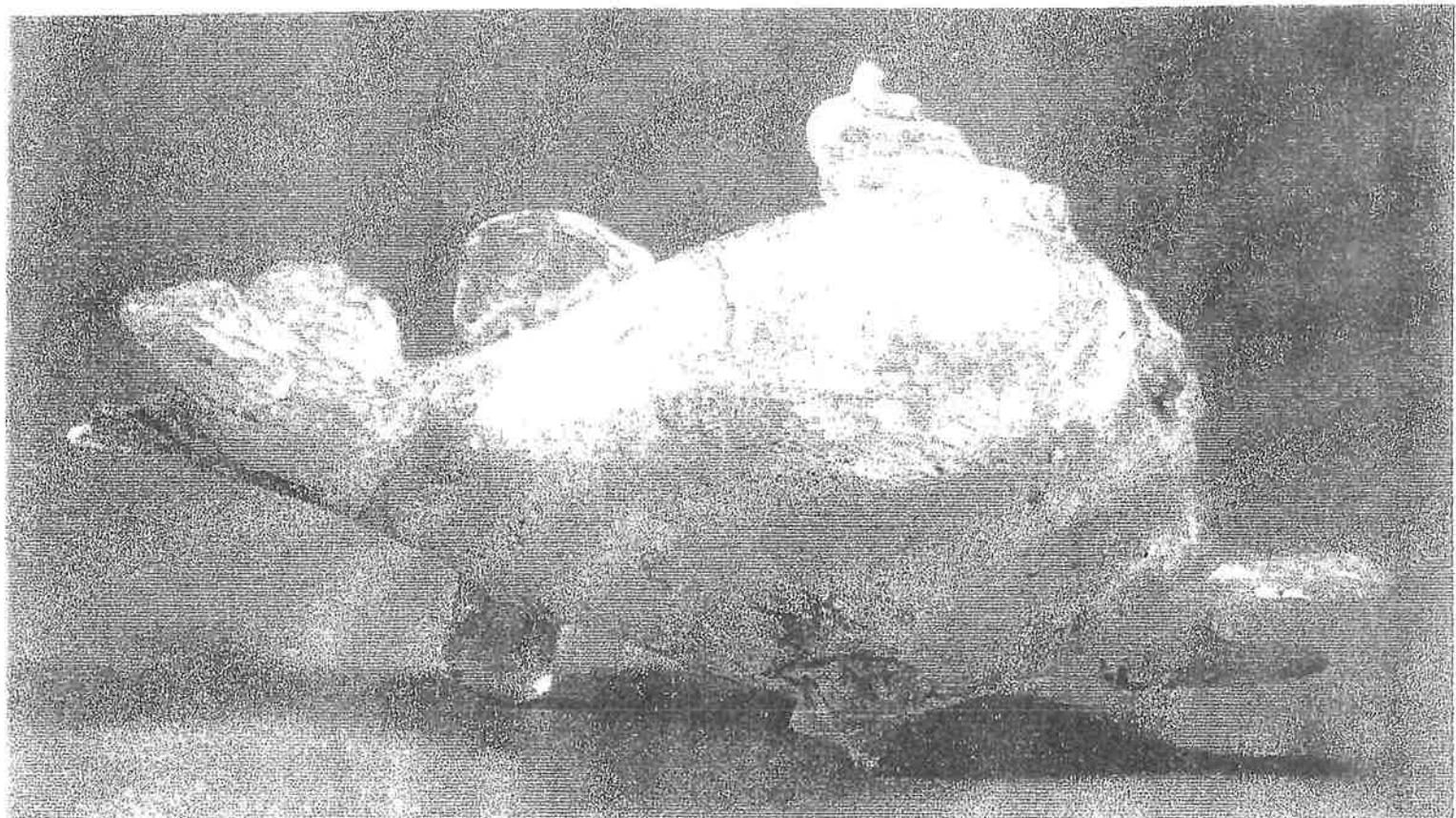
04_1_46



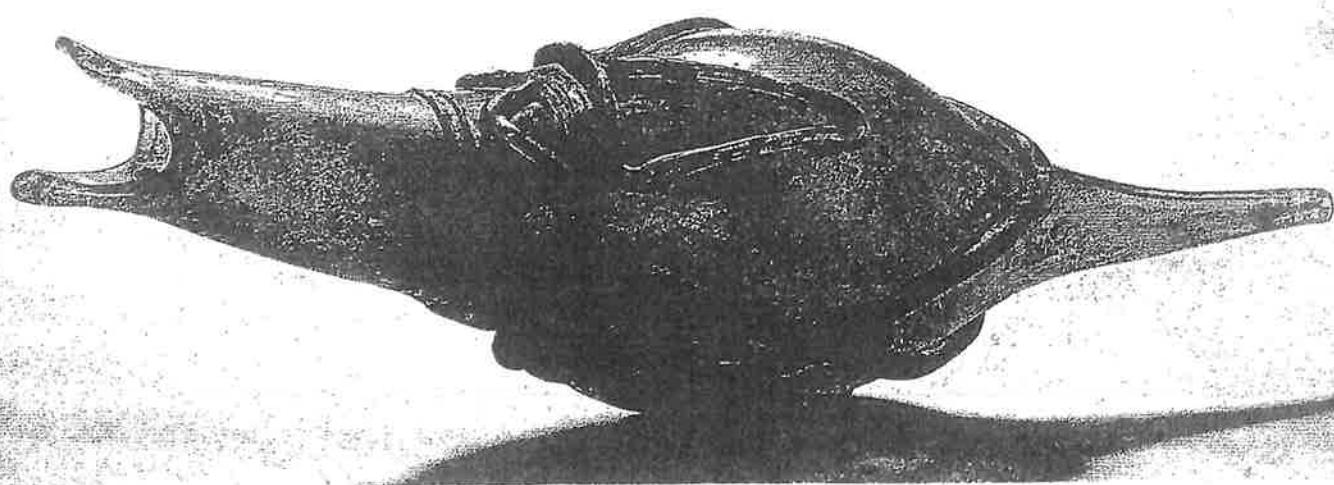
魚形ガラス壺などの出土



切子の杯の出土状況



ドルフィン 1~2世 アフガニスタン ベグラム 出土



鷦鷯形水注 十六国 中国 辽寧省北票県西官堂子 馮素弗墓 出土

280

290

300

310

320

330

340

350

360

370

380

390

400

410

420

430

440

西晋

慕容廆 (284 - 333)

慕容皝 (333 - 337)

① 慕容皝 (337 - 348)

② 慕容儁 (348 - 360)

③ 慕容暉 (360 - 370)

前燕

① 慕容垂 (384 - 396)

② 慕容寶 (396 - 398)

③ 慕容盛 (398 - 400)

④ 慕容熙 (401 - 407)

⑤ 高雲 (慕容雲) (407 - 409)

後燕

① 馮跋 (409 - 430)

② 馮弘 (430 - 436)

北燕

北魏



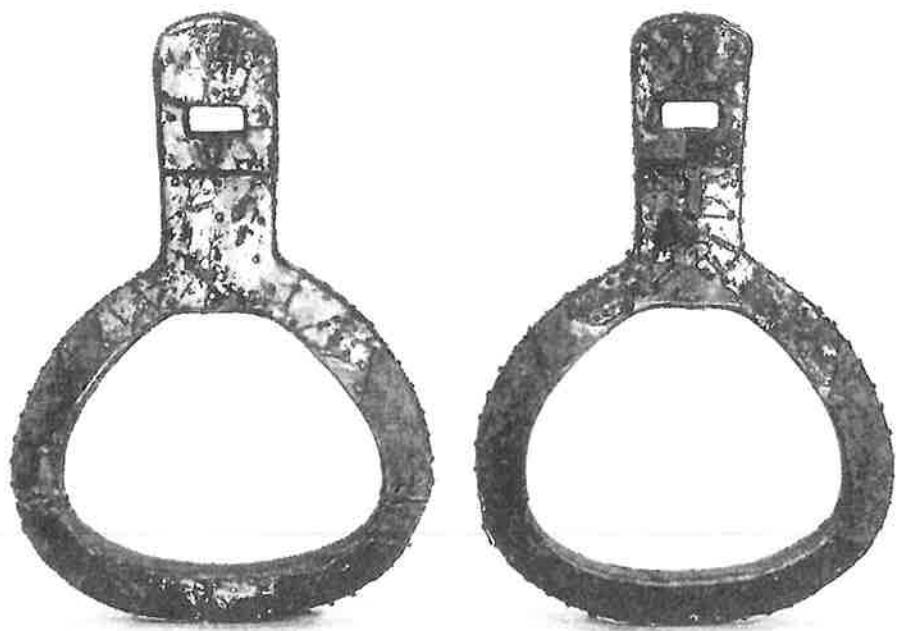
三燕（前燕、後燕、北燕）の系譜と年表

奈良文化研究所, 2004『三燕文物精粹』, 齊齊哈爾市文物考古研究所編

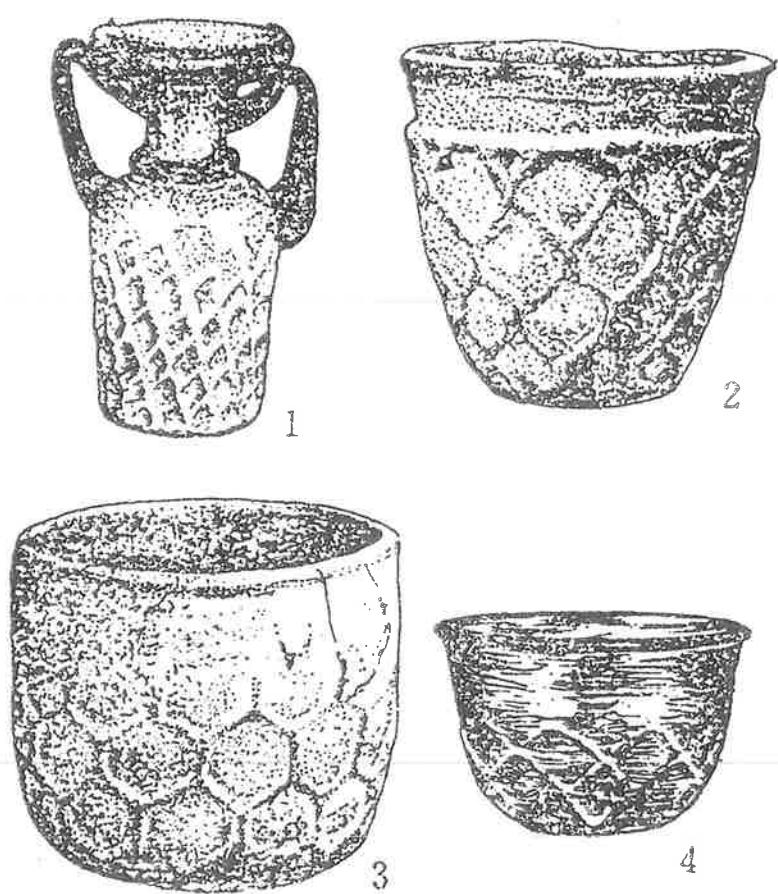
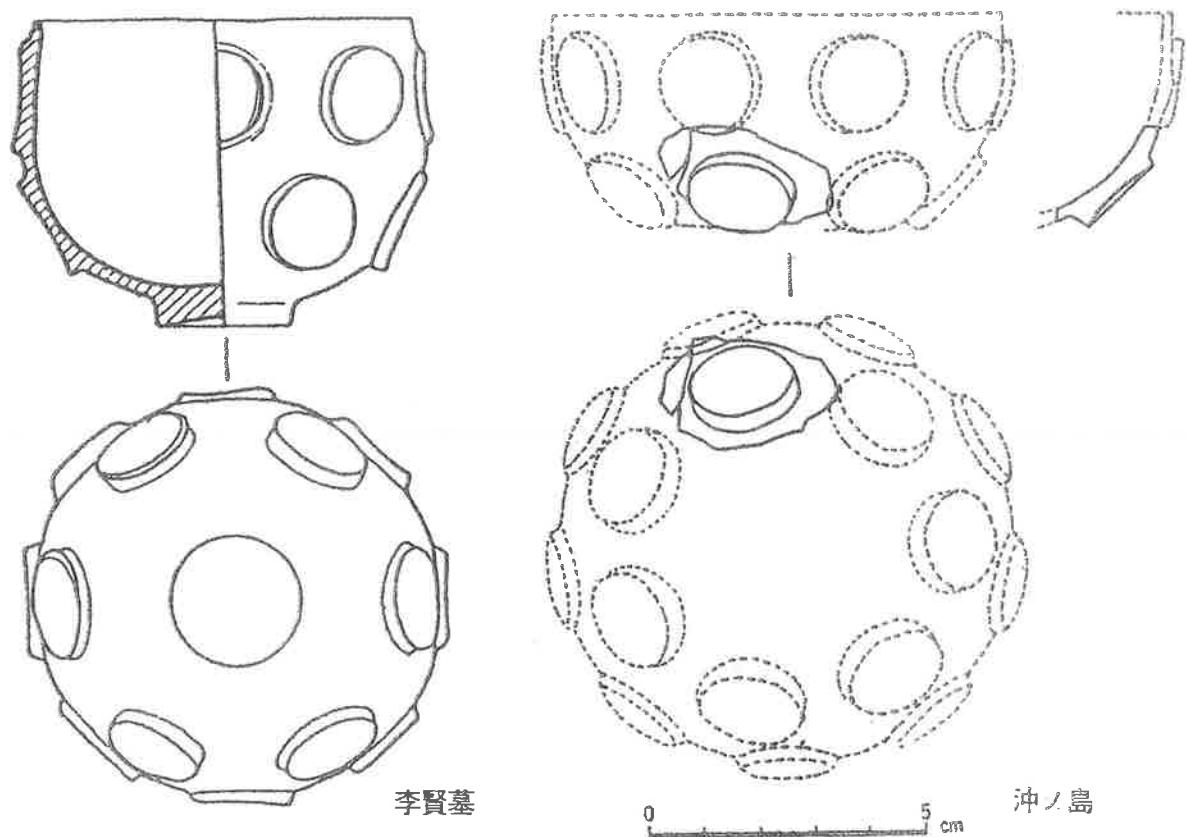
北方騎馬民族（かかせー）—三燕文化（考古新見山 飛鳥資料館回録 第五一冊、二〇〇九）



馮素弗墓出土品（下の金印は展示品ではない）



馮素弗墓 木芯金銅張輪燈



范世民·周室中·一九八二「网纹玻璃杯考略」文稿·一九八二年第八期

叙利亚、伊朗出土古代玻璃器与河北景县出土网纹玻璃杯的比较

1. 叙利亚出土（4—5世纪）

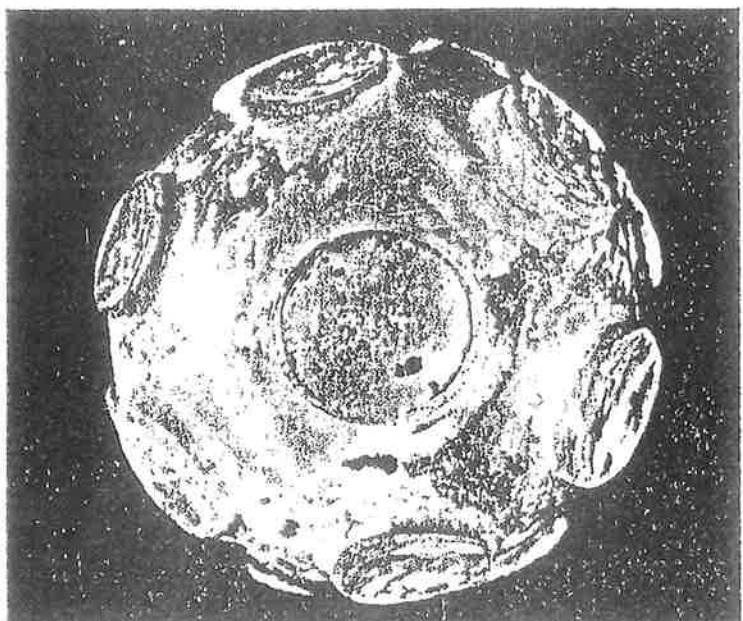
2、3. 伊朗出土（5—7、8—9世纪）

4. 景县出土（约5世纪）

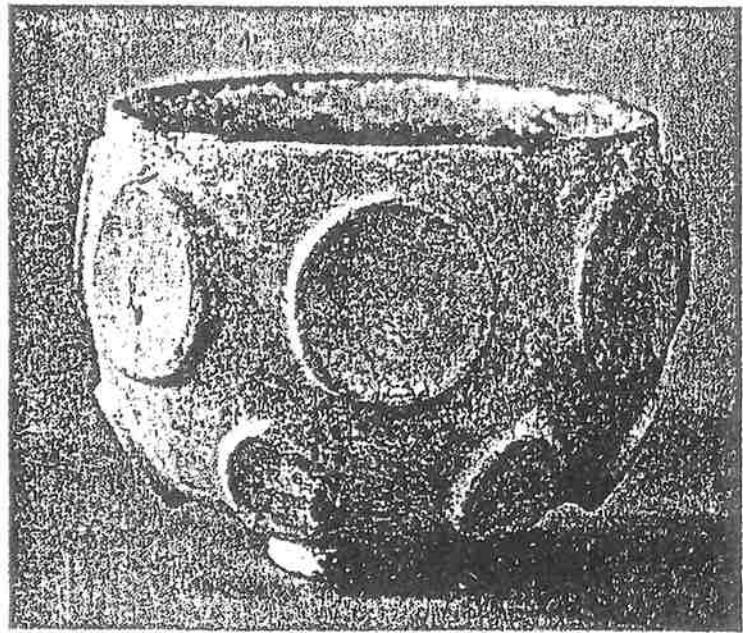
宋家窑、一九八六年一月出土的玻璃碗——萨珊玻璃器的发现与研究
《考古》一九八六年第二期



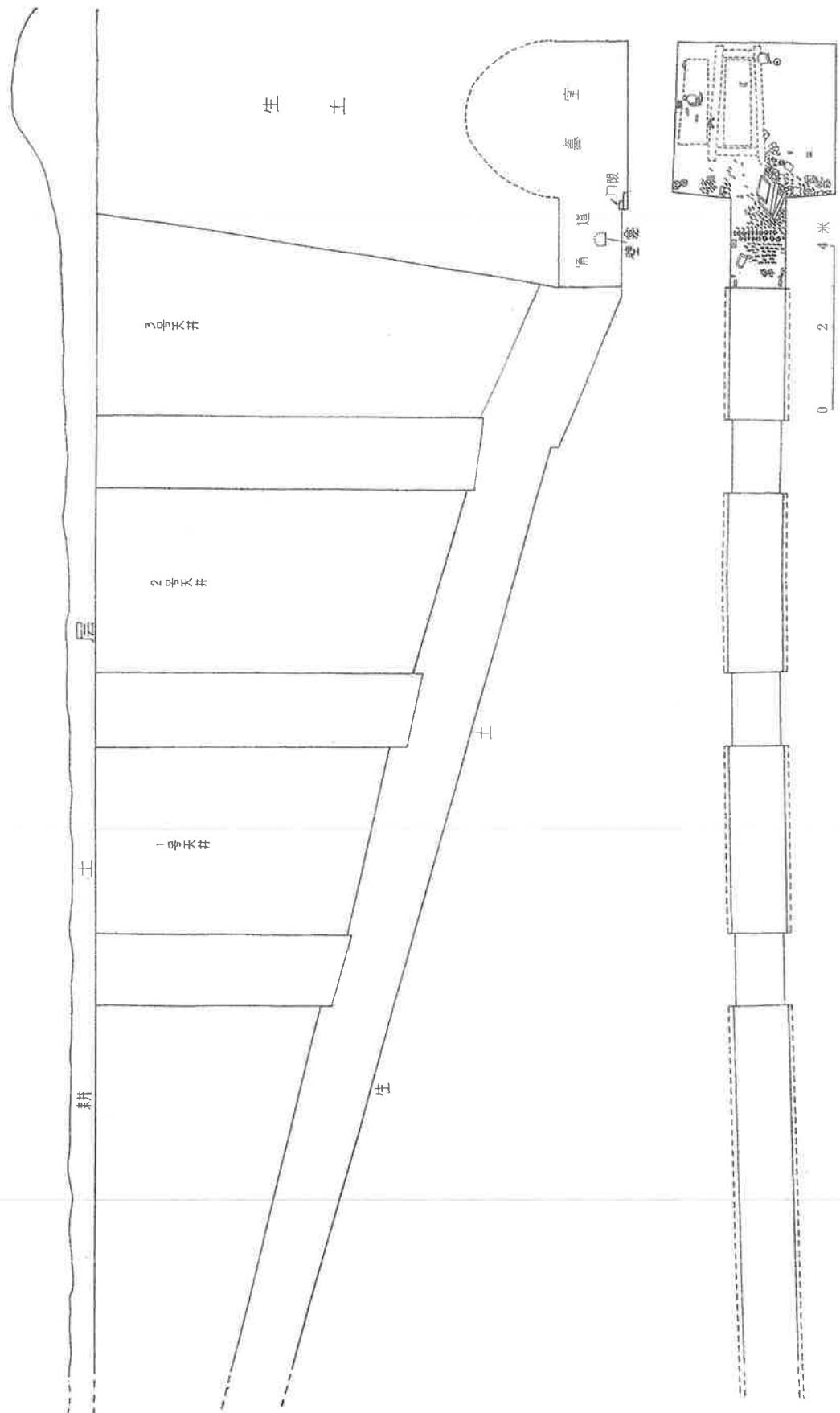
李贤墓出土的玻璃碗



同（底部）



伊朗吉兰州出土的玻璃碗



李贤墓平、剖面图

宁夏回族自治区博物馆·宁夏固原博物馆，1985「宁夏固原北周李贤大娘墓
发掘简报」，《文物》1985年第11期



鎏金银壶



鎏金银壶腹部图案展开图

九州とシルクロード－沖ノ島と李賢墓－

玄界灘のまっただ中に浮かぶ沖ノ島が、海の正倉院とも呼ばれるようになったのは、1954年の第1次から1971年の第3次まで、十数回にわたって実施された発掘調査の結果、そこが海神を信仰する島として、長期にわたる祭祀遺物が大量に包蔵され、また、その内容が超一級品であることがわかってからのことである。そしてそのことは、4世紀後半から9世紀初頭にわたり、対外交渉時に航海の安全を祈る、国家的祭祀の場としての性格をじゅうぶんに物語ってくれるものである。

そのうち、5～6世紀ごろのものとして注目されるものに、カットガラスの碗がある。

それは第1次・第2次調査の際、8号遺跡の中央小岩の東北と西南側より同一個体の破片が二つ出土したもので、淡い緑色を帯びている。復元すると、口径約12cmで、上段に9個と下段に7個の円形浮出し切子の装飾をもつものである。その時期のほかの出土品に、朝鮮半島における三国時代新羅の王陵グラスの古墳から出土する金製指輪・金銅製杏葉・鉄錠・铸造鉄斧などと共に通するものが含まれている。また、朝鮮半島では新羅でのみかなりの数量のガラス容器が出土することを合わせ考えると、沖ノ島出土のガラス碗は新羅からもたらされた公算が強い。このガラス碗については、酷似するものが、はるかイランのギラーン州マザンデラン地方の墳墓で出土していることを、東京大学イラン・イラク調査団の深井晋司氏によって明らかにされた。深井氏によると、イラン高原では、パルティアよりササン・ペルシャの時代つまり3、4世紀以降7世紀ごろにかけて、各種のカットガラスが製作されたものと推定されており、その中に、沖ノ島出土品のような浮出し円文をもつものが含まれているのである。

ところが、古代ガラス研究家の由水常雄氏によれば、イラン高原は、出土地が多いからといってただちに製作地でもあったとするることはできず、むしろ古代貿易ルートの集荷地であった可能性が大きいとされる。そして、そのようなカットガラスは、地中海周辺のローマン・グラスの産地で製作されたものとされる。

日本の古墳時代の出土品には、そのほかに京都市上賀茂神社境内や伝安閑天皇陵古墳でそれぞれ出土したカットガラスがあり、沖ノ島出土品と同じコンテクストで考えられる。

さて、沖ノ島出土の浮出し円文をもったカットガラスにきわめて酷似したものが、シルクロードに当たる地域でも見つかっているのである。それは、敦煌の東南方およそ870kmほどのところに位置する、寧夏回族自治区固原県の寧城南部の郷深村で1983年に出土したものである。

この

ガラス碗は、沖ノ島出土品と同様に、浮出し円文の装飾をもつもので、口径9.5cm、高さ8cmの緑色を帯びたカットガラスである。ちなみに墳墓からの出土品300点余りの中には、鎏金銀製把手付の水瓶があり、ササン時代のバクトリア製品とされる。ところで、この墳墓は、墓誌によると、北周の李賢（503～569年）とその妻吳輝（547年没）の合葬墓であることがわかった。

また、上賀茂神社境内などで出土しているカットガラスは、最近でも1980年に新疆ウイグル自治区の楼蘭古城跡で出土しており、筆者は、1988年の現地調査の際に実見したところである。

このように見えてくると、沖ノ島出土のガラス碗のルーツを考えるとき、シルクロードが大きく浮び上がってくるのである。

引用文献

岡崎敬、1979「沖ノ島8号祭祀遺跡出土の玻璃碗」『宗像 沖ノ島』宗像大社復興期成会。

深井晋司、1968『ペルシャ古美術研究—ガラス器・金属器』吉川弘文館。

由水常雄・棚橋淳二、1977『東洋のガラス—中国・朝鮮・日本』三彩社。

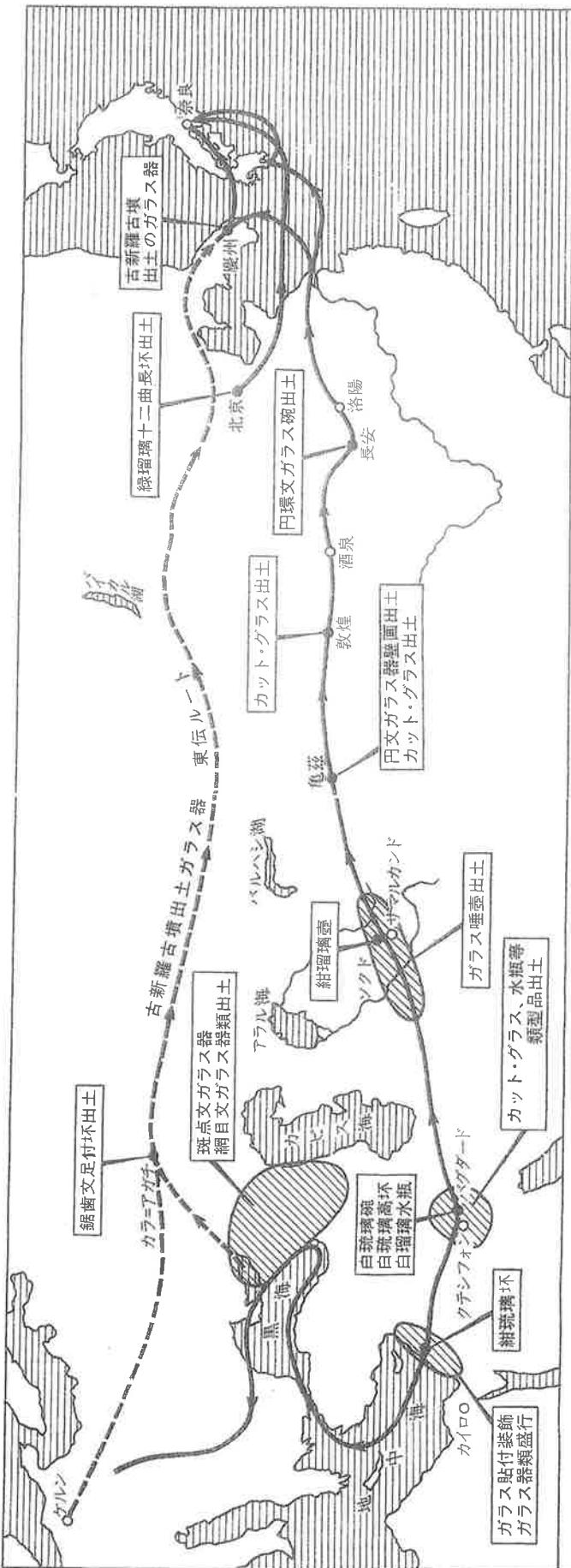
B. I. マルシャーク・穴沢咲光、1989「北周李賢夫妻墓とその銀製水瓶について」『古代文化』第41巻第4号。

西谷 正、1995『シルクロードによって結ばれた、中国新疆地区と古代か国

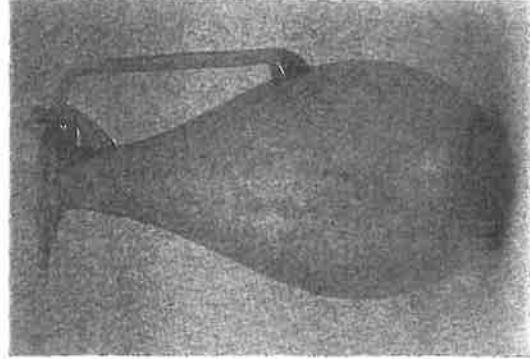
九州地区との比較考古学的研究』九州大学文学部考古学研究室

白瑠璃水瓶 イスラム 九世紀 正倉院

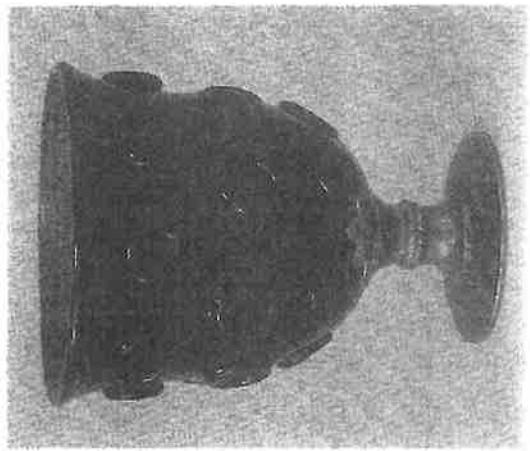
正倉院ガラス器のルート



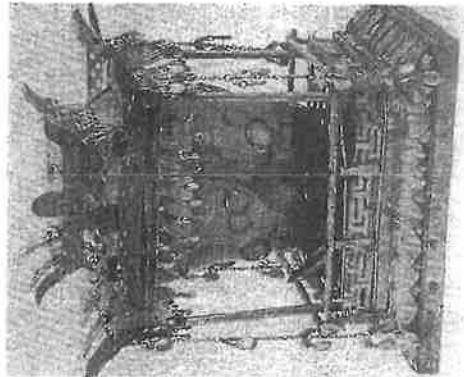
由水常松庵、1996年ガラスセミナーにての東西交流へ由 NHK人間大学 チキスト



緑瑠璃環 ペルシア 七世紀 正倉院



谷都松林寺碑塔出土 緑瑠璃舍利环 ペルシア 七世紀 韓国国立博物館



安市何家村出土 白瑠璃钵 ペルシア 七世紀 中西



新羅と宋の美

韓国古代文化展から

ガラス容器は、三国時代の古墳の中でも新羅の古墳・慶州付近の王陵グラスの古墳からしか出土しない。これまでに金塚や馬塚など古墳から、一点のガラス容器が出土している。

そのうちには、皇廟大塚兩埠出土の本例は、その形態ながらも色彩を放ち、アシアでは他に類例がない。新羅古墓の土のぬくもりには遠て、ガラス容器の冷たさを感じるが、同時に華美にして流麗である。

この瓶の形は、鳳凰(ほうおう)のチバシのようやつ

ガラス製鳳首形瓶

遠大なローマン

美しい。加えて取手の上部には、破損後に金糸を巻きつけて修理するなど心にくくない。ローマンに夢が膨らむのである。

門家。由水常雄氏による出土のガラス容器は、概して地中海周辺のローマン・グラスの産地

そのアロボームショーンは流れをもつた曲線美を見せる。口縁にめぐる一条と、

頸部に輪をさめやうにつ

けた細い十条ほどの轆状裝

飾や、口から肩にかかる取

手は、それを青色を呈し

て、体部の淡緑色に映そ

れば、ステップ・ルートを

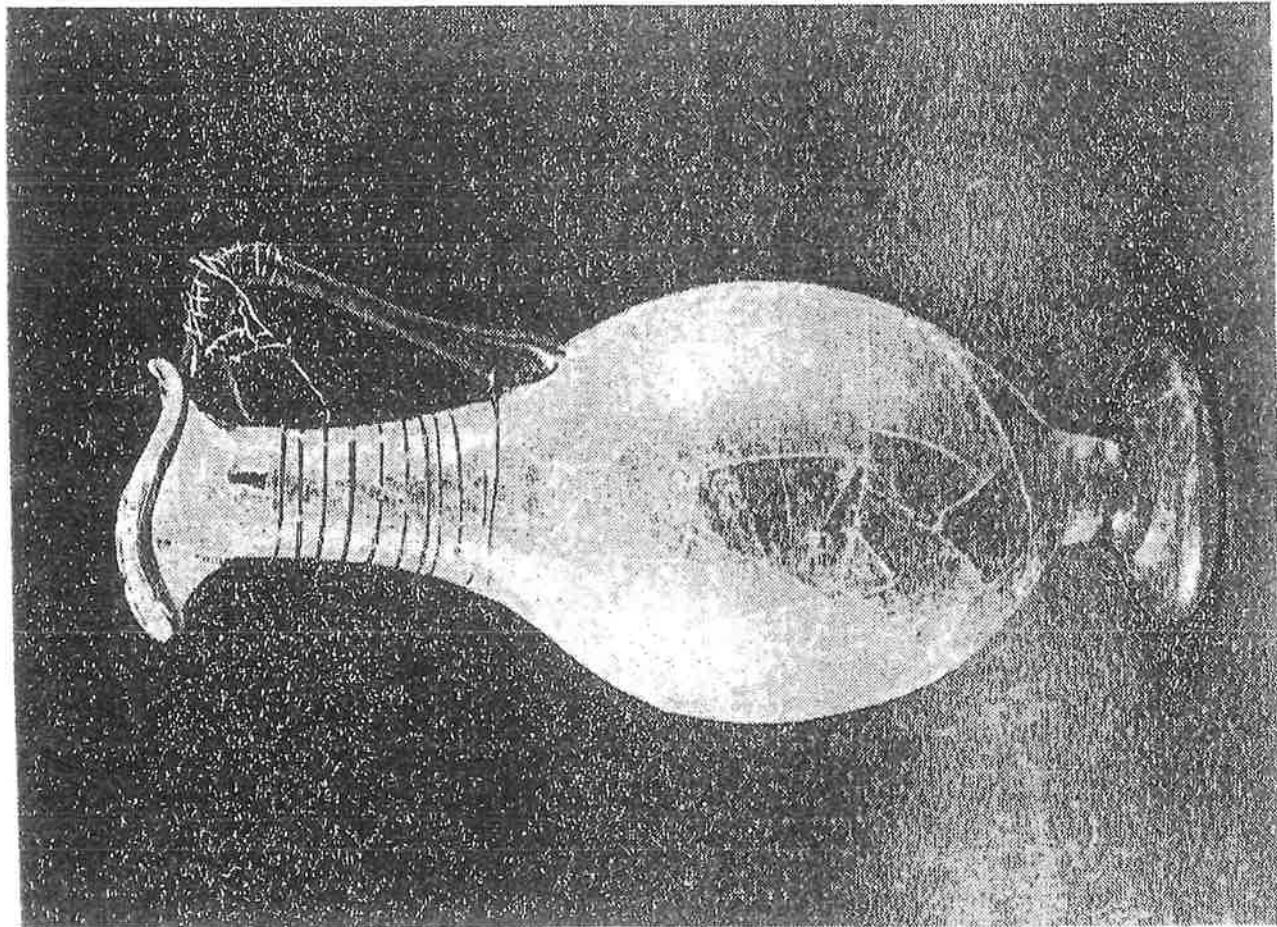
経由して、はるか新羅にもでもたらされたといわれるのである。おそらく中国の北部や高句麗が介したものであろう。

さらに、本例の形態は、我が正倉院宝物のなか、胡瓶と呼ばれたガラス器や漆器に連じて、ガラス容器の背後に秘められた遠大なローマンに夢が膨らむのである。

九州太助義(考古学)
西谷 正

福岡市美術館。入場料 一般九百円(前売り七百円)	1月2日-12月4日
巴。高大生六百円(四百円)	小中生三百円(二百円)
立中央博物館、福岡市美術館、N.T.C.、西日本新聞社主催。	巴。日韓休館。韓国

1983年10月号付 西日本新聞 外刊





대성동 91호분 출토
加耶·大成洞 91号墳

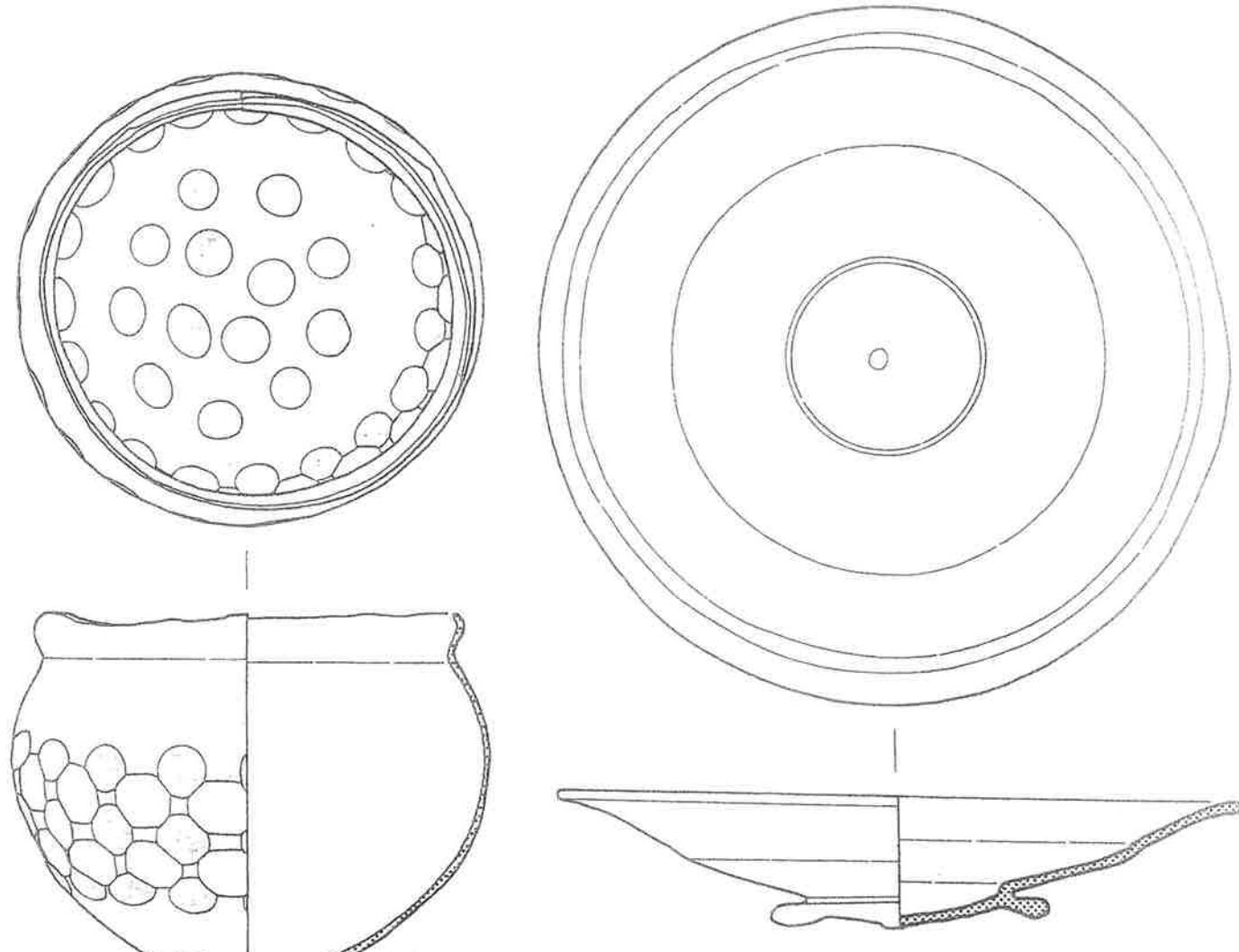


경주 금관총 출토 (국립경주박물관)
新羅·金冠塚

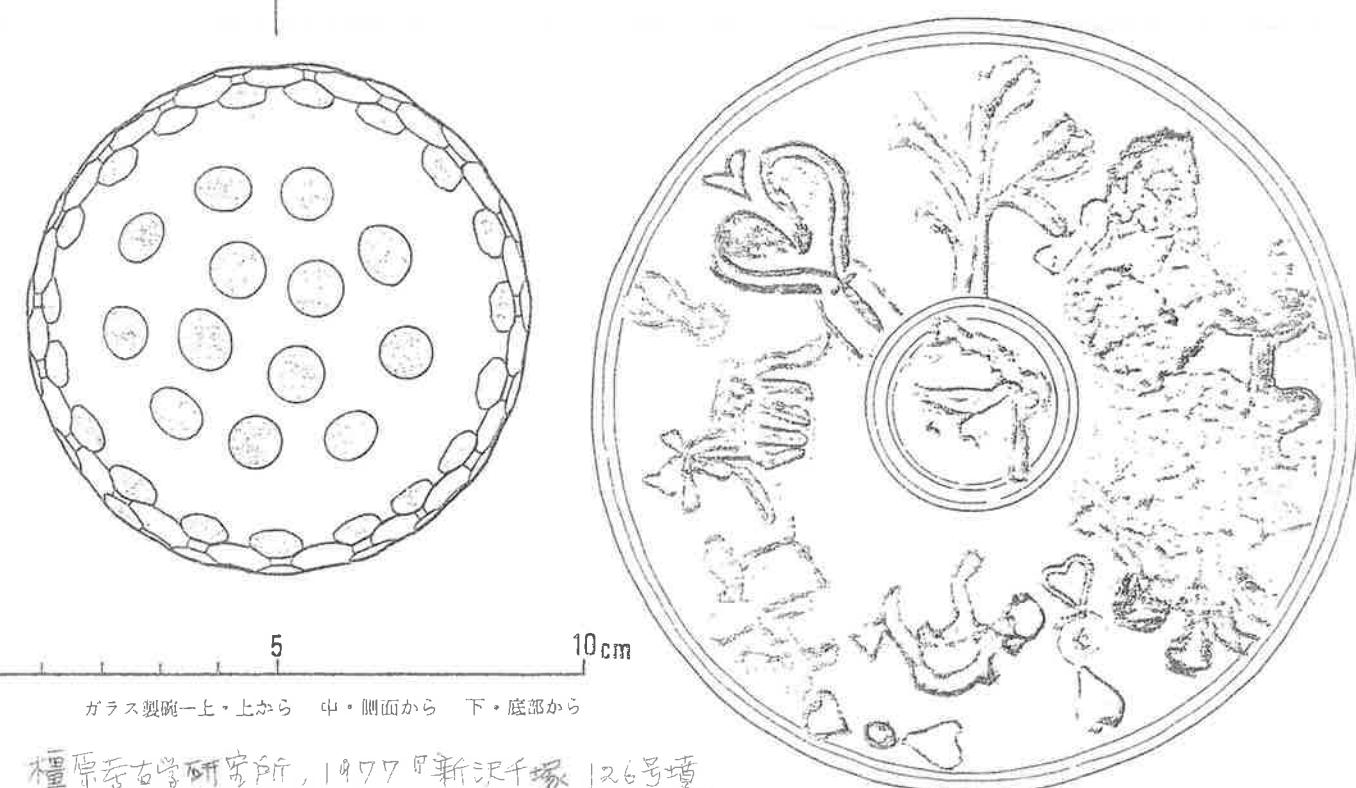


경주 사천왕사 출토 (국립경주문화재연구소)
統一新羅·四天王寺 足跡

大成洞古墳博物館, 2017『秘密の門をもう一度叩こう』



ガラス製皿実測図（実大）



ガラス製碗一上・上から 中・側面から 下・底部から

櫻原考古学研究所, 1977年新沢千塚 126号墳

ガラス製皿の文様の痕跡

國村秀典、二〇一九年五月紀念ニアシア東西交流——「仏教と青銅器」カラス器を中心にして

二〇一九・一〇・二〇、東京
四 資料集

魏太和五年歲在辛酉春二月

與駕東巡狩次于中山御新城宮北辛唐陵路逕州市臨

通達而觀川陸踐徑術而觀險易詳眺屬修然興想

帝后爰發德音而詔群臣曰夫佛法幽深應名理方非夫

觸遇斯因在於致興將何以要福真期取證來果遂命

有司以官財頤工采州東之門顯敞之地造此五級佛龕

夏五月廿八日基剗始建

三聖乃親發至願緣興造之功德回蘇巡其凡草無窮妙法熙隆

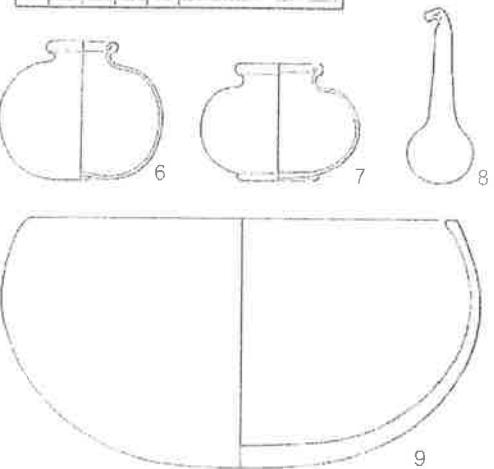
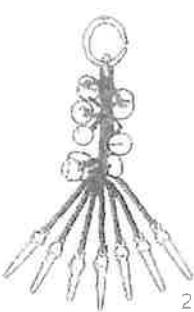
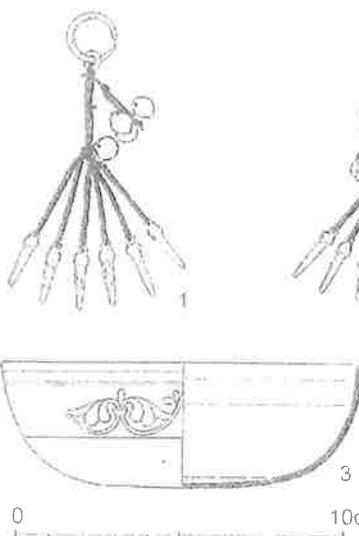
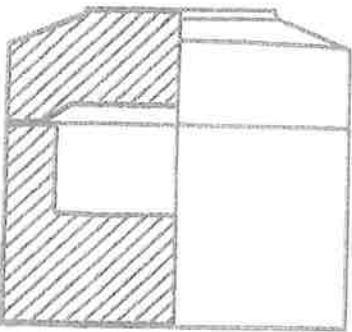
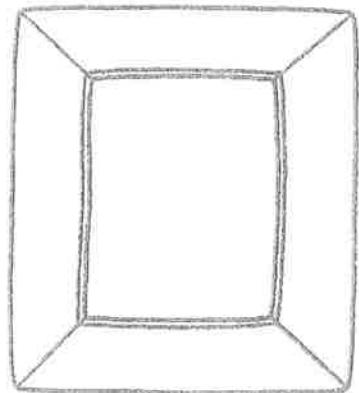
大惠不期時和幸豐百姓安逸更果常与佛會一切臣民六宮

着厲方世界六趣衆生成同斯福克感佛果及作讚曰

詣赤至道理亦趣廣福證將來業傳既往以忘修諸梵音照響普

謝矣或瞻靈像於穆帝后儀形是欽愛固避幸播此惠

蓮誦垂寺寄詒授於願曰因果永離昏沉



河北定州太和五年石函と舍利莊嚴具

